

## 主要行等の令和6年3月期決算の概要

### 1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 令和6年3月期は、前期における投資信託解約益の剥落を主因として資金利益が減益となるも、債券等関係損の縮小によるその他業務利益の増加、融資手数料等の役務取引等利益の増加、及び傘下証券の業績好調を主因に、当期純利益は前期比17.3%の増益（33,788億円）。

（単位：億円）

	R4年3月期	R5年3月期	R6年3月期	前期比
業務粗利益	108,328	115,933	129,174	13,241
資金利益	54,392	63,039	57,256	▲5,782
役務取引等利益	39,182	40,824	46,098	5,274
その他業務利益	4,722	202	9,378	9,175
うち債券等関係損益*	▲3,123	▲11,893	▲5,602	6,291
経費	▲70,260	▲73,850	▲79,481	▲5,631
業務純益	38,630	42,776	50,845	8,069
コア業務純益*	26,165	38,077	36,311	▲1,766
コア業務純益*（除く投資信託解約損益）	25,232	31,742	34,798	3,057
与信関係費用**	▲9,761	▲10,244	▲10,106	139
株式等関係損益	5,101	5,973	5,282	▲691
親会社株主に帰属する当期純利益	27,023	28,807	33,788	4,982

\*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。\*\*与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	R4年3月末	R5年3月末	R6年3月末
貸出金（末残）***	328.0兆円	349.6兆円	371.5兆円

\*\*\*貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

### 2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権残高と不良債権比率は、令和5年3月末に比べ上昇。

	R4年3月末	R5年3月末	R6年3月末
不良債権残高	3.4兆円	3.2兆円	3.9兆円
不良債権比率	0.92%	0.81%	0.93%

### 3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1比率、普通株式等Tier1比率は、令和5年3月末に比べ上昇。

- 国内基準行の自己資本比率は、令和5年3月末に比べほぼ横ばい。

（国際統一基準行：4グループ）

（国内基準行：3グループ）

	R5年3月末	R6年3月末
総自己資本比率	14.92%	16.50%
Tier1比率	13.25%	14.83%
普通株式等Tier1比率	11.87%	12.98%

	R5年3月末	R6年3月末
自己資本比率	11.34%	11.44%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、SBI新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、SBI新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。

（注4）各グループ公表資料等より、金融庁作成（公表数値の定義はグループにより異なる場合がある）。